

F P キャプテン 解説セミナー

そうか！

F P キャプテンはこう使うのか

今、証券会社は資産運用、生命保険会社は生命保険の選び方ができるシミュレーションソフトを公開しており便利になりました。

しかし、これだけでは相談者が満足する家計相談はできません。

今回はこれらのソフトを利用しながら、F P キャプテンで顧客が満足するライフプラン相談の方法に挑戦します。

日時：2019年6月8日（土）

神奈川県F P 協同組合

講師：鈴木榮三郎

ケーススタディ 1

①相談者の状況（総務省資料による2018年の平均像より）

2018年末

夫 49歳 23歳よりメーカーに勤務
年収 805万円、定年60歳 退職金2300万円
60歳～65歳は嘱託で勤務 給与570万円

妻 46歳 35歳～59歳まで小売業でパート 給与88万円
23歳～30歳まで商社で事務員

長女 16歳 公立高校 1年、大学は私立文系を希望

長男 13歳 私立中学1年、中高一貫校、大学は公立の理工学部、修士希望

銀行預金 1,000万円 2017年末は1,055万円

住宅 35歳の時にマンション 4500万円を固定金利2.88%で
35年のローンで3800万円を借り入れた

基本生活費 315万円

生命保険 3,000万円定期 35歳～65歳まで 保険料 年9万円

車購入 56歳～75歳まで9年ごとに200万円を用意

車費用 49歳～81歳年まで 年20万円

国内旅行 49歳～81歳まで 毎年 10万円

海外旅行 60歳から3年ごとに75歳まで 100万円

②相談内容

- ・金融資産が増えないので将来が心配だ
- ・万が一の時に生命保険の保障金額は充分か

現状分析

①「メニュー」

「相談者の状況」をインプット 2018年末

家族 夫 49歳、妻 46歳、長女 16歳、長男 13歳

仕事 夫 大企業 製造業 収入805万円

妻 パート 小企業 小売業 収入88万円

金融資産 1,000万円

支出 基本生活費 315万円

住宅 物件 マンション 4500万円 35歳時に購入

借入額 3800万円、固定金利 2.88% 35年ローン

②「マクロ」をクリック

③「選択」を「承認」にして「上記ご回答をグラフに表示」をクリック

現状分析

お金の使い方を調べてみましょう（薄ピンク色の所にご記入をお願いします）

質問票は**給与所得者 20歳～59歳**で年収が**150万円以上**を基本とします

家族	何歳ですか（昨年末の満年齢）	49歳				
	配偶者は何歳ですか（昨年末の満年齢）	46歳				
	お子様の年齢を大きい順に入れて下さい	16歳	13歳			

仕事	お仕事についてお伺いいたします。次の中から 選択 してください				
		性別	企業規模の選択	職種の選択	税込年収(万円)の記入(*注)
	ご本人	男性	大企業(1000人以上)	製造業	805万円
配偶者	女性	小企業(10人～99人)	卸売・小売業	88万円	

注:ブランクの場合は統計値を使用します

金融資産（昨年末）	1000万円	昨年末の預貯金、債券、株券、外貨預金など全ての合計額です
-----------	--------	------------------------------

支出	家計についてお伺いいたします。次の中にご記入ください				
	基本生活費	年額(万円)	315万円	食費・水道・光熱・通信・交通・医療・被服・雑費・小遣い・交際費等(*注)	
	家賃	年額(万円)		既に自宅購入者は不要です	
	車関連費	年額(万円)		車の税金、保険代、ガソリン代、維持費の年平均額（車体価格を除く）	
	保険料	年額(万円)		生命保険、医療保険、火災保険などの年平均額（車の保険を含みません）	
	その他	年額(万円)		上記以外の支出（一種の用途不明金で預金や債券購入などを含みません）	

注:ブランクの場合は統計値を使用します

自宅購入契約がある場合には次にご記入ください						
	物件価格(万円)	金利タイプ	借入年齢(歳)	借入金額(万円)	年利(%)	期間(年)
	4500万円	固定金利	35歳	3800万円	2.880%	35年

「承諾」に変更すると以前の情報は削除されます ⇒ **承諾**

現状分析

- ④ 「入力」画面の「現状」にインプット
「退職金」 2300万円 60歳時
「金融資産」 前前年末高1055万円（基準年末残 1,000万円を確認）
生命保険 3,000万円定期 35歳～65歳まで
- ⑤ 「支出」
生命保険料 49歳～65歳まで 年9万円
車購入 56歳～75歳まで9年ごとに200万円を用意
車費用 49歳～81歳まで 年20万円
国内旅行 49歳～81歳まで 年10万円
海外旅行 60歳から3年ごとに75歳まで 100万円
- ⑥ 「教育」
第一子 大学 私立文系 16を確認
第二子 私立中学 13 私立高校 14
理系公立大学 8 理系大学院 8に変更
- ⑦ 公的年金 妻 35歳～59歳まで小売業でパート
23歳～30歳まで商社で事務員 をインプット

現状分析

現状

		結婚予定年(西暦) ⇒			昇給最終歳(60歳未満のこと)以降変動率は適用しない				無税パート上限	
収入	収入関連	昇給率		2.798%	昇給最終歳	57	退職金変動率	0.000%	配パ60歳時	0%
		退職など	60歳時率	57%	65歳時率(注)	0%	退職金率・額	2,300.00	取得年齢	60
	一時的	年・額の順に⇒								
収入	副収入 #1	開始年	間隔:年毎	終了年	年額	副収入 #2	開始年	間隔:年毎	終了年	年額
	本人 a					夫婦 c				
資産・保険	積立金	積立・前年残高	積立開始年	積立利息 %	年間積立金	積立終了年	据置期間年	据置利息 %	受取期間年	受取利率 %
	保険・年金1									
	保険・年金2									
	保険・年金3									
	金融資産	前々年末高	基準年末残	利率	生命保険/ 収入保障保険 (被保険者=本人)	契約開始年	35	契約終了年	65	保険金額
		単位:万円	1,055	1,000	0.000%	変動率・額				
↑資産残高が「0」の場合は、再度「0」を記入										
支出	基本生活費(万円:年)	315	60歳後	252	家賃⇒	0	0	0	34	
	首都圏増加率(任意)	0	人数反映	1	変動率	0.000%	年額(万円)	0	その他支出	0
	保険料	0.000%	年額(万円)	0	保険終了年	80	自動車関連費	0.000%	年額(万円)	0
	支出関連	その他	①西暦:年齢	年額(万円)	②西暦:年齢	年額(万円)				
(例1)	支出関連	開始年	間隔:年毎	終了年	年額(万円)	支出関連	開始年	間隔:年毎	終了年	年額(万円)
	保険 #1	49	1	65	9	保険 #2				
	車購入 #1	56	9	75	200	車購入 #2				
	車固定費#1	49	1	81	20	車固定費#2				
	車検費 #1					車検費 #2				
	趣味					電気製品				
	国内旅行	49	1	81	10	海外旅行	60	3	75	100
	贈与金					仕送り金				
	その他 #1					その他 #2				
	その他 #3					その他 #4				
	その他 #5					その他 #6				

現状分析

記入日				作成者						
教育	幼歳	4	変動率					資金援助		
教育番号	幼	小	中	高	前大	後大	院	年齢	額	
第一子	11	2	3	4	16	16		30	100	
第二子	11	2	13	14	8	8	8	30	100	
第三子	11	2	3	4	16	16		30	100	
子(父)	11	2	3	4	16	16		30	100	
子(母)	11	2	3	4	16	16		30	100	
配偶者所得	昇率	昇終	%60歳	%65歳	退職率/額		退歳	パ終		
正規雇用	0.58%	42	89%	0%	2.10		60			
公的年金	本人	配偶者	1		65	65				
公的年金受取額			年金計算		本人	配偶者				
厚生(1)/共済(2)	1	1	厚生(1)/共済(2)							
統計値選択	1	1	過去仕事開始			23				
今回仕事開始年	23	35	過去仕事終了			30				
退職・掛金終了(歳)	64	59	年齢		0	27				
年金開始年齢	65	65	以前の仕事	給料						
参考年齢 予備欄	65	65		昇率						
早生まれ(1)	0	0		昇終	0	28				
加給年金 c	万円	-1	0						以前の仕事は 59歳まで	

現状分析

⑧ 「キャッシュ」を確認

夫 年収 805万円、

定年60歳 退職金2300万円

60歳～65歳は嘱託で勤務 給与570万円

65歳からの年金

妻 35歳～60歳まで小売業でパート 給与88万円

65歳からの年金

現状分析

<現状の問題点>

75

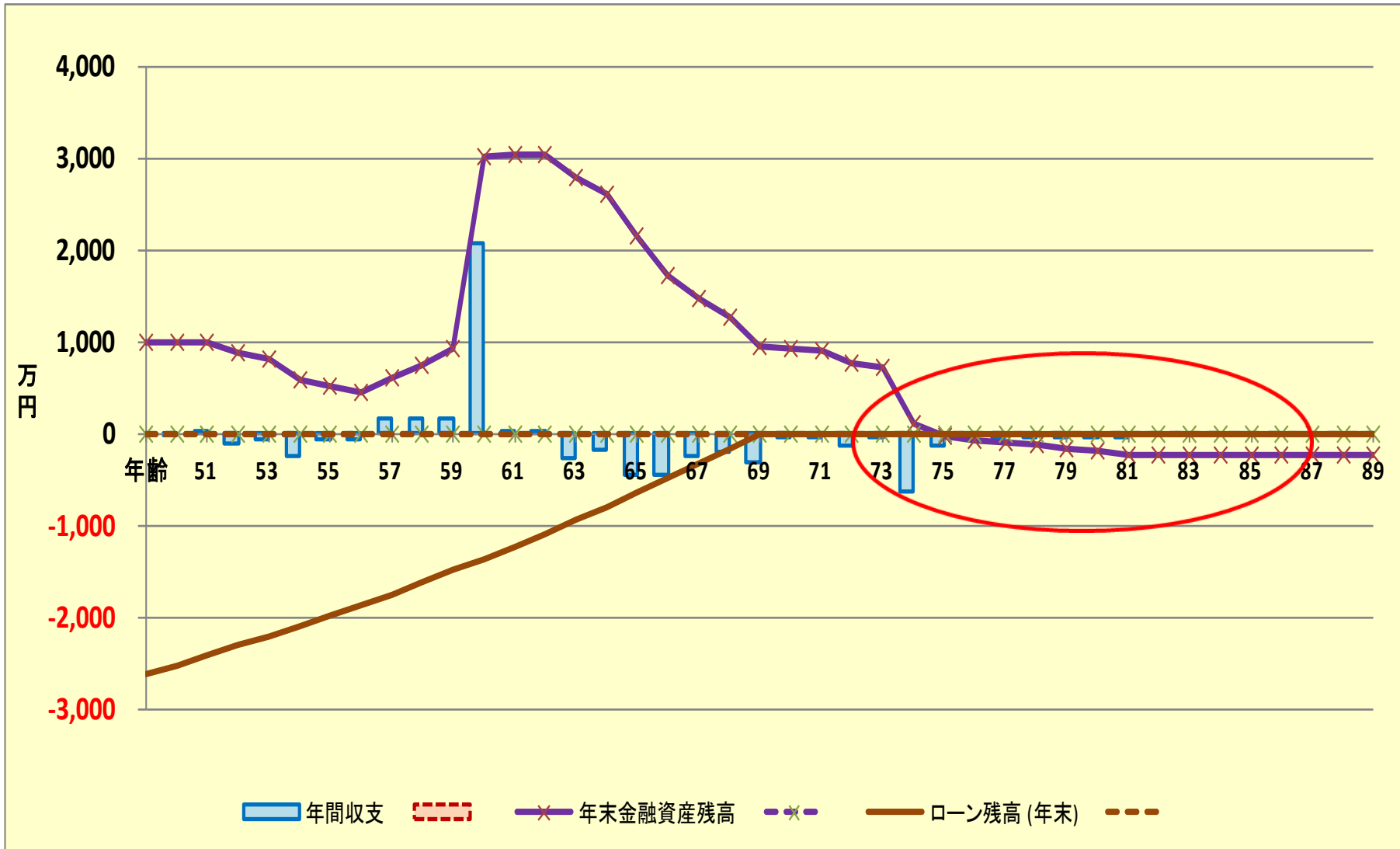
- ~~74~~歳で金融資産がマイナスになり、
これが継続する
- 必要保障額に対して生命保険が大きく
不足している

現状のキャッシュフロー表

キャッシュフローチャート 一括比較

様

記入日



現状での必要保障額

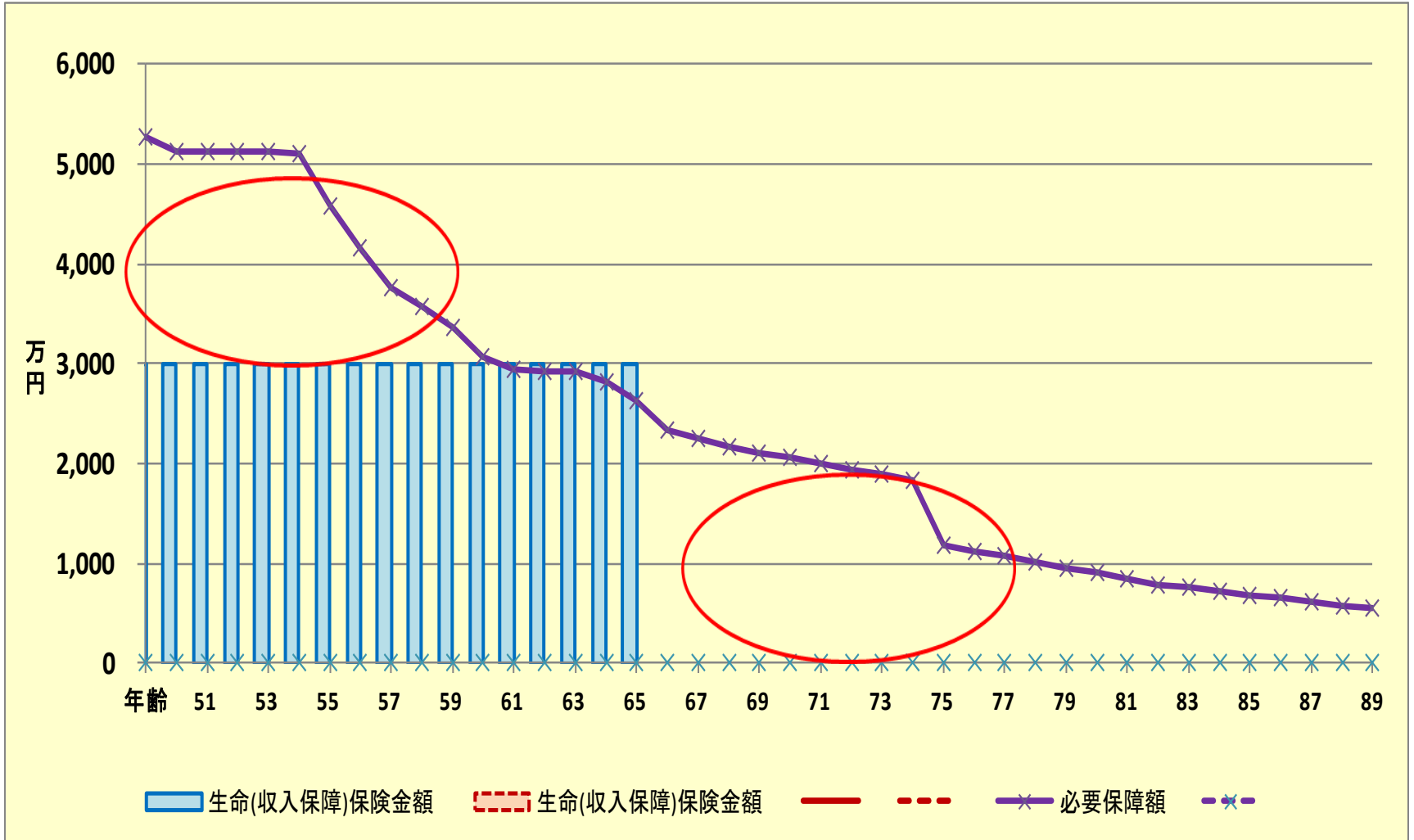
必要保障額概算

必要保障額(本人が今年死亡の場合)=[予備費+今後の遺族の支出合計(基本生活費等の支出累計)]
 の遺族の収入合計(遺族年金等を含む収入累計)-死亡後の前年の金融資産残高

- 今後 作成者

様

記入日



対応策

「入力（変更）」にインプット

① 資産運用

・金融利回り詳細

	2019年		2034年	
	分配	金利	分配	金利
安全優先	20%	0.02%	40%	0.02%
中間	20%	2%	40%	2%
利回り優先	60%	4%	20%	4%

② 生命保険見直し（買い増し）

保険②	50歳～54歳	定期	2200万円
保険③	55歳～60歳	逡減20%定期	1600万円
保険④	66歳～96歳	逡減5%定期	2500万円

支出追加 保険の買い増しによる支出

保険②	50歳～54歳	毎年	13万円
保険③	55歳～60歳	毎年	12万円
保険④	66歳～96歳	毎年	24万円

金融利回り詳細	初年: 2019	年: 2034	年: 0
金融資産	分配: 金利	分配: 金利	分配: 金利
安全優先	20% : 0.0%	40% : 0.0%	100% : 0.0%
中間	20% : 2.0%	40% : 2.0%	0% : 0.0%
利回優先	60% : 4.0%	20% : 4.0%	0% : 0.0%

対応策

「入力」にインプット

契約開始年	35	50	55	66
契約終了年	65	54	60	96
保険金額	3,000	2,200	1,600	2,500
変動率・額	0.000	0.000	-0.200	-0.050
家賃⇒	0	0	0	34
変動率	年額(万円)	その他支出	変動率	年額(万円)
0.000%	0		0.000%	0
0	②西暦:年齢	0	年額(万円)	0

支出関連	開始年	間隔:年毎	終了年	年額(万円)
保険 #2	50	1	54	13
車購入 #2	0	0	0	0
車固定費#2	0	0	0	0
車検費 #2	0	0	0	0
電気製品	0	0	0	0
海外旅行	60	3	75	100
仕送り金	0	0	0	0
保険3	55	1	60	12
保険4	66	1	96	24
その他 #6	0	0	0	0

対応の効果

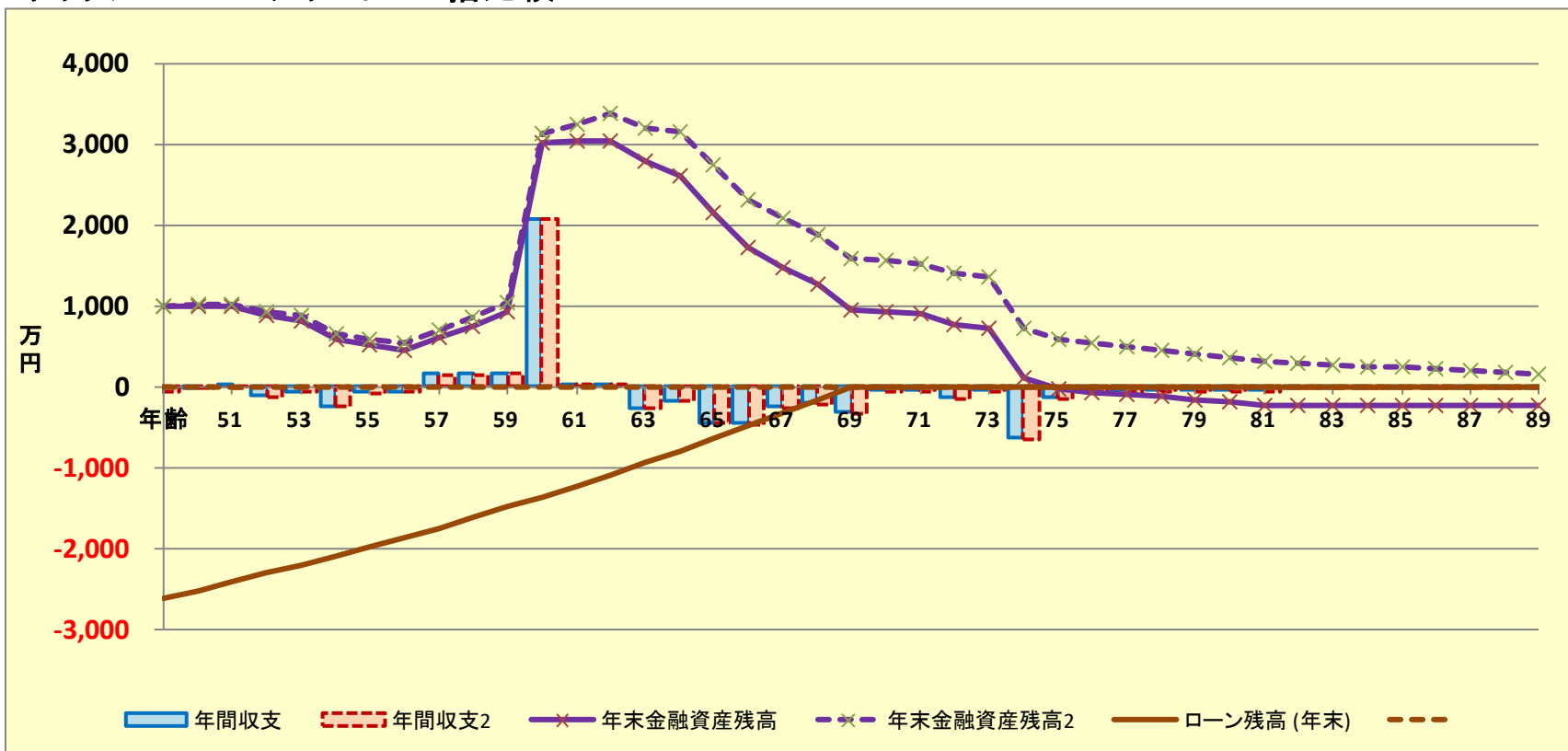
- ①資産運用により本人89歳まで金融資産はマイナスにならなくなった。
ただし、支出に突発事項が発生した場合は抵抗力が弱い。
夫婦とも労働収入を増やしたほうが良い
- ②必要保証額は保険の買い増しにより問題解決した
- ③ダイヤモンドグラフによる家計診断では対策後も大きな改善がなく、収入増による住宅ローンの繰り上げ返済などが必要

対応の効果

キャッシュフローチャート 一括比較

様

記入日



対応の効果

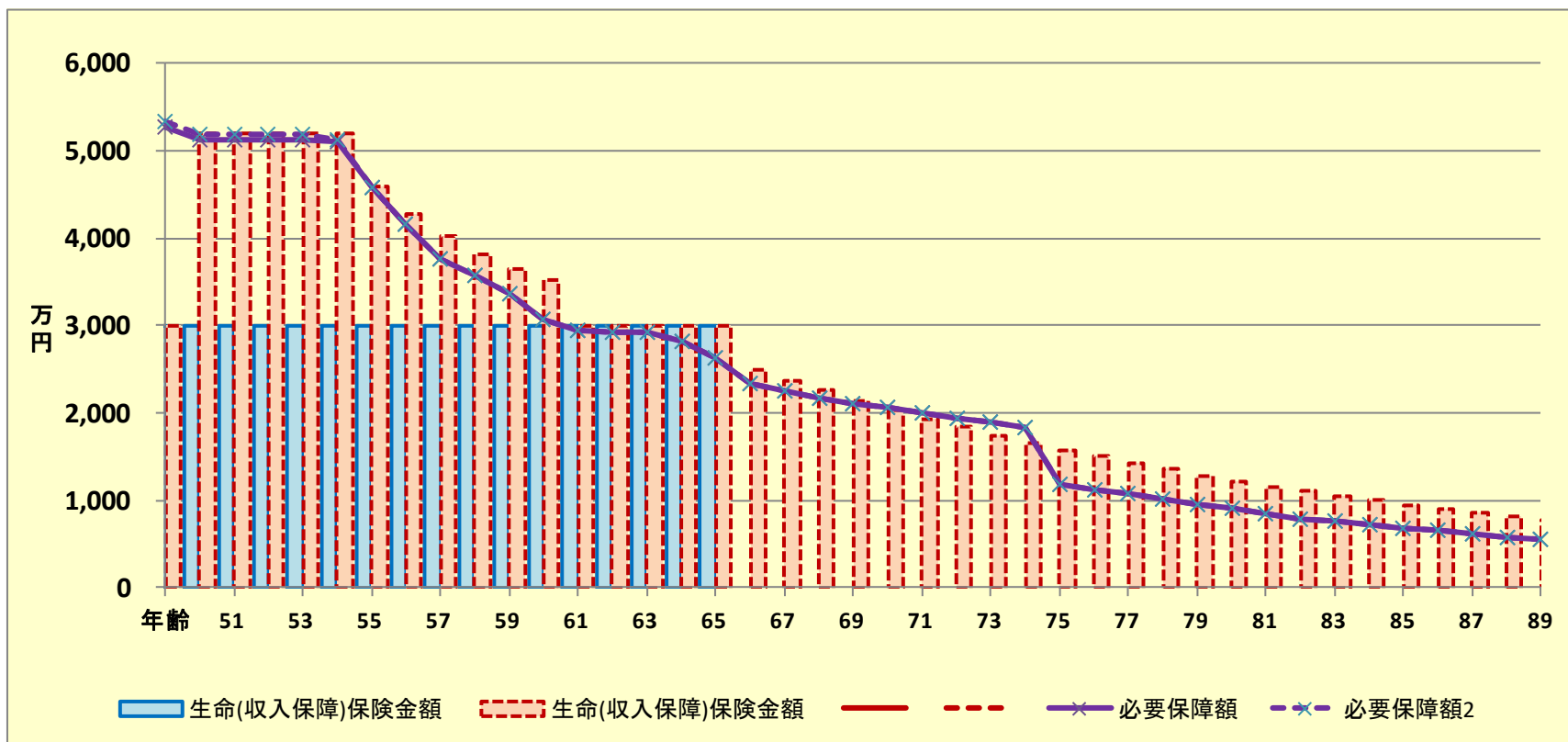
必要保障額概算

必要保障額(本人が今年死亡の場合)=[予備費+今後の遺族の支出合計(基本生活費等の支出累計)]
 の遺族の収入合計(遺族年金等を含む収入累計)-死亡後の前年の金融資産残高

- 今後 作成者

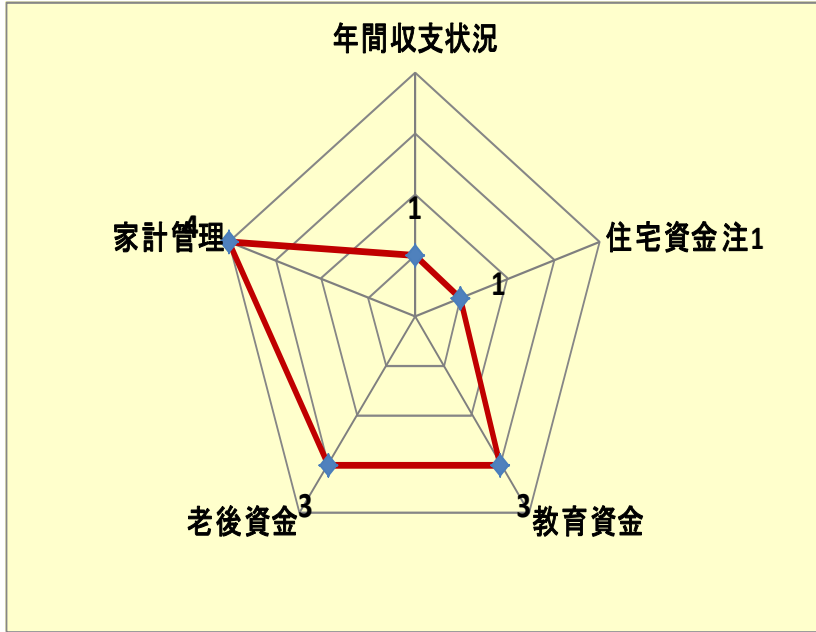
様

記入日

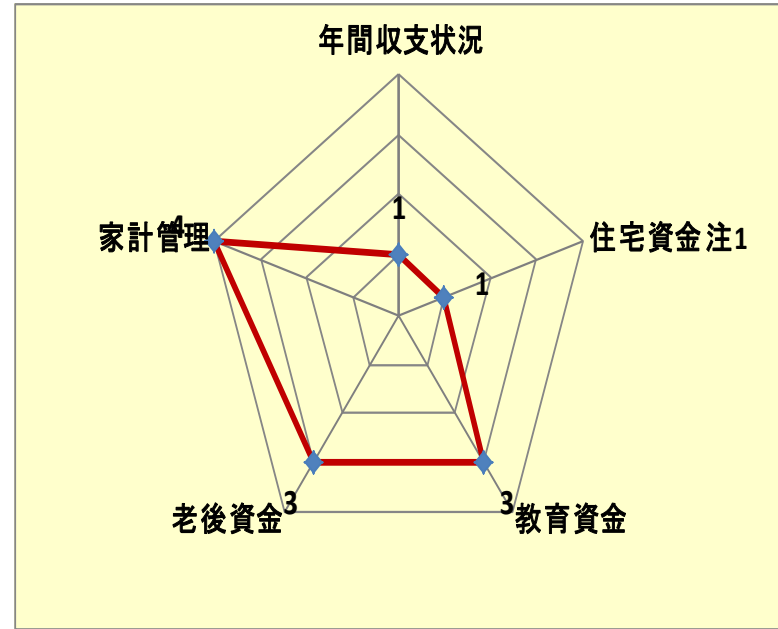


対応の効果

リタイアメントプランの人(50歳以上)
ライフプラン診断書(現状)



リタイアメントプランの人(50歳以上)
ライフプラン診断書(変更)



↓ 本格的ライフプランの作成をお勧めします。

年齢(基準年+1)	50	リタイアメントプランの人(50歳以上)
年間収支状況	1	40年間の収支赤字回数
住宅資金注1	1	60歳前年ローン残高
教育資金	3	60歳以降の教育費
老後資金	3	65歳前年の貯蓄残高 - 負債
家計管理	4	5年後の用途不明金

本格的ライフプランの作成をお勧めします。

年齢(基準年+1)	50	リタイアメントプランの人(50歳以上)
年間収支状況	1	40年間の収支赤字回数
住宅資金注1	1	60歳前年ローン残高
教育資金	3	60歳以降の教育費
老後資金	3	65歳前年の貯蓄残高 - 負債
家計管理	4	5年後の用途不明金

Input → 1 表示=1 1 ←Input2

注1: 自宅購入年はローンの初回借入年を使用します。(借入が無い場合でも購入年を初回借入年に入力下さい)

注2: 『Input』は『現状(例1)』を、『Input2』は『変更(例2)』を表示します

付録

＜無料のポートフォリオソフト、生命保険ソフトの使い方＞

1、便利な資産運用ソフト、生命保険シュミレーションソフトがあります。ただこれだけではキャッシュフロー表はできません。

FPキャプテンと合わせて使うのが良いと思います。

2、資産運用ソフト

「フォリオ」のロボアドバイザーの例

商品配分と最終利回り結果の検討に良い

3、生命保険選びのソフト

「みんながぶ保険」の例 逓減定期保険＋医療保険

「Hken-Mammoth」の例 逓減定期保険

50歳代 NISA ポートフォリオ運用の考え方（長期・分散）

改善案 「FPキャプテン」での提案（P12、P16のグラフ）

	資産配分	利回り	運用利回り
安全優先（定期・日本債券）	20%	0.02%	0.004%
中間（外国債）	20%	2.0%	0.4%
利回り優先（外国株・日本株・REIT）	60%	4.0%	2.4%
ポートフォリオの利回り			2.804%

計算式 運用利回り 配分 × 利回り ÷ 100
 ポートフォリオの利回り 各利回りを + したものを

改善案 「フォリオのロボアドバイザー」でのお任せ提案

子も出	資産配分	利回り	運用利回り
コモディティ	6%		
不動産	5%		
債権	37%		
株	52%		

30歳代 iDeCo (積立・長期・分散)

1、毎年24万円を複利3%で30年間積み立てた場合 出資合計720万円
年金終価係数を使う (この場合 40.5681) 複利・積立
 $24万円 \times 40.5681 = 973万円$ になる
(出資との差は **+253万円** 元金から**35%アップ**)

2、定期預金単利 0.02%の場合は
利息 $24万円 \times 0.0002 = 48円$
利息総額は $48円 \times 30年 = 1,440円$ 元金から**0.02%アップのみ**

この計算は資産の増加を計算するには良いが、キャッシュフロー上の計算は毎年の家計支出を引いてその残高に利回りをかける計算となる。 資料23

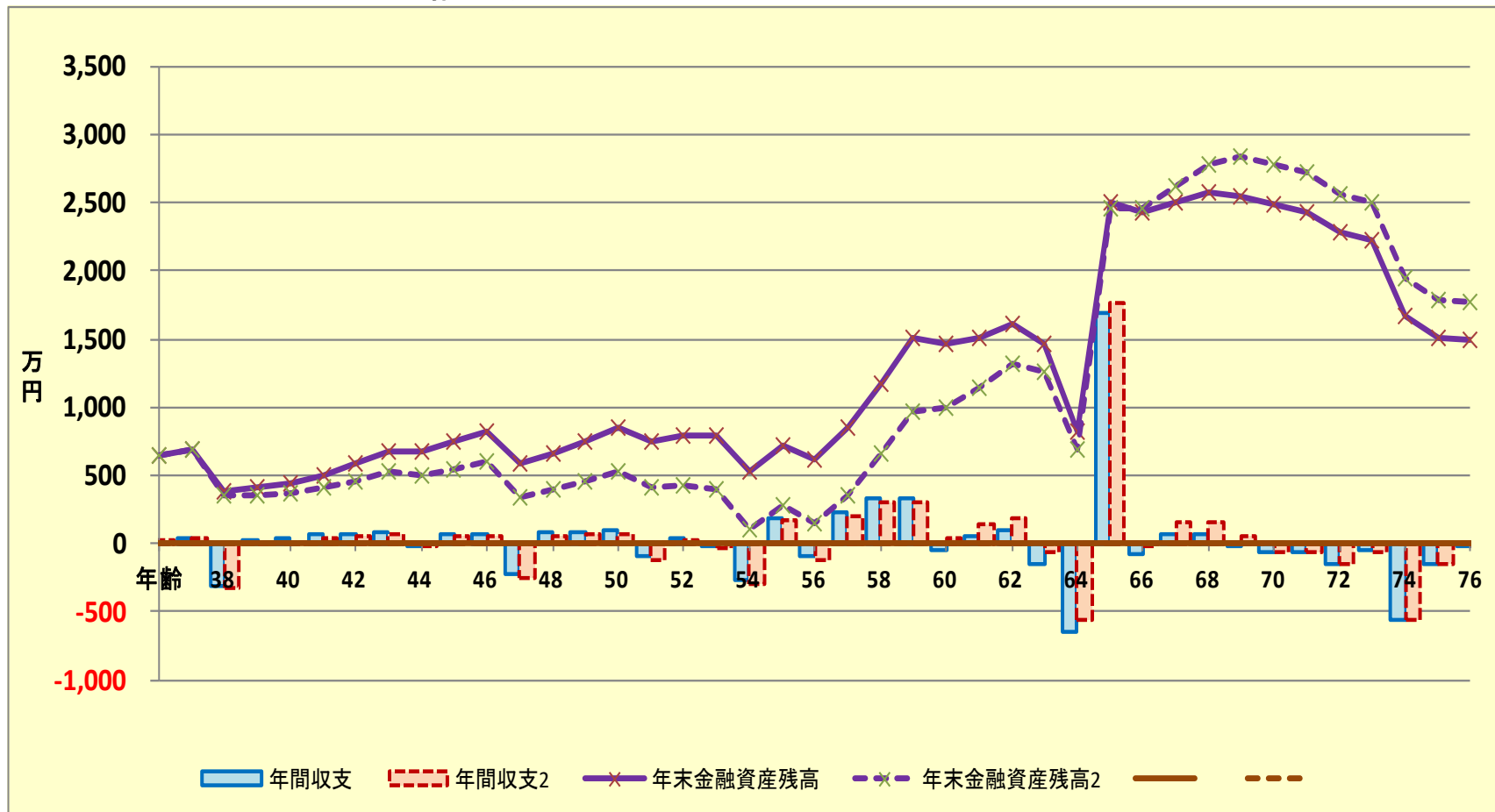
3、Robo Advisor (フォリオ社) を使用して中間的運用をする
出資340万円+毎月5万円を30年続ける 出資額計は2,140万円
株・債券を使って複利で中程度運用をすると5,151万円になる
利息計は **3,011万円** 元金から**140%アップ**

積み立ての有無による資産残高の差

キャッシュフローチャート 一括比較

様

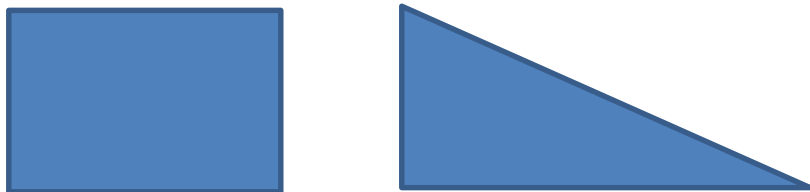
記入日



上記グラフの差は毎年24万円の積立の有無のみ
 積み立て継続中は積み立て額相当が下回る残高となり、取り崩しがはじまると試算高は上回る。

遺族のための保険

1、定期保険よりも逓減定期・収入保障保険を



FPキャプテンでの逓減定期・収入保障保険の使い方

(p12、p14を参照 保険料のインプットm忘れずに)

・必要保障額に合わせた保険を探す

2、保険料から見ると

収入保障保険、逓減定期保険、定期保険、終身保険の順で高くなっていく。

3、「みんなかぶ」保険の例

死亡保険 49歳～58歳 保険料 36.3万円/年

保障10万円/月×12ヶ月×10年 =1,200万円

終身保険 400万円 +終身医療保険

4、対応「Hoken Mommoth」

①定期保険 4000万円 49歳～53歳 保険料9万円/年

②逓減定期保険 4000万円 54歳～83歳 毎年5%減
保険料16万円/年

遺族のための死亡保険

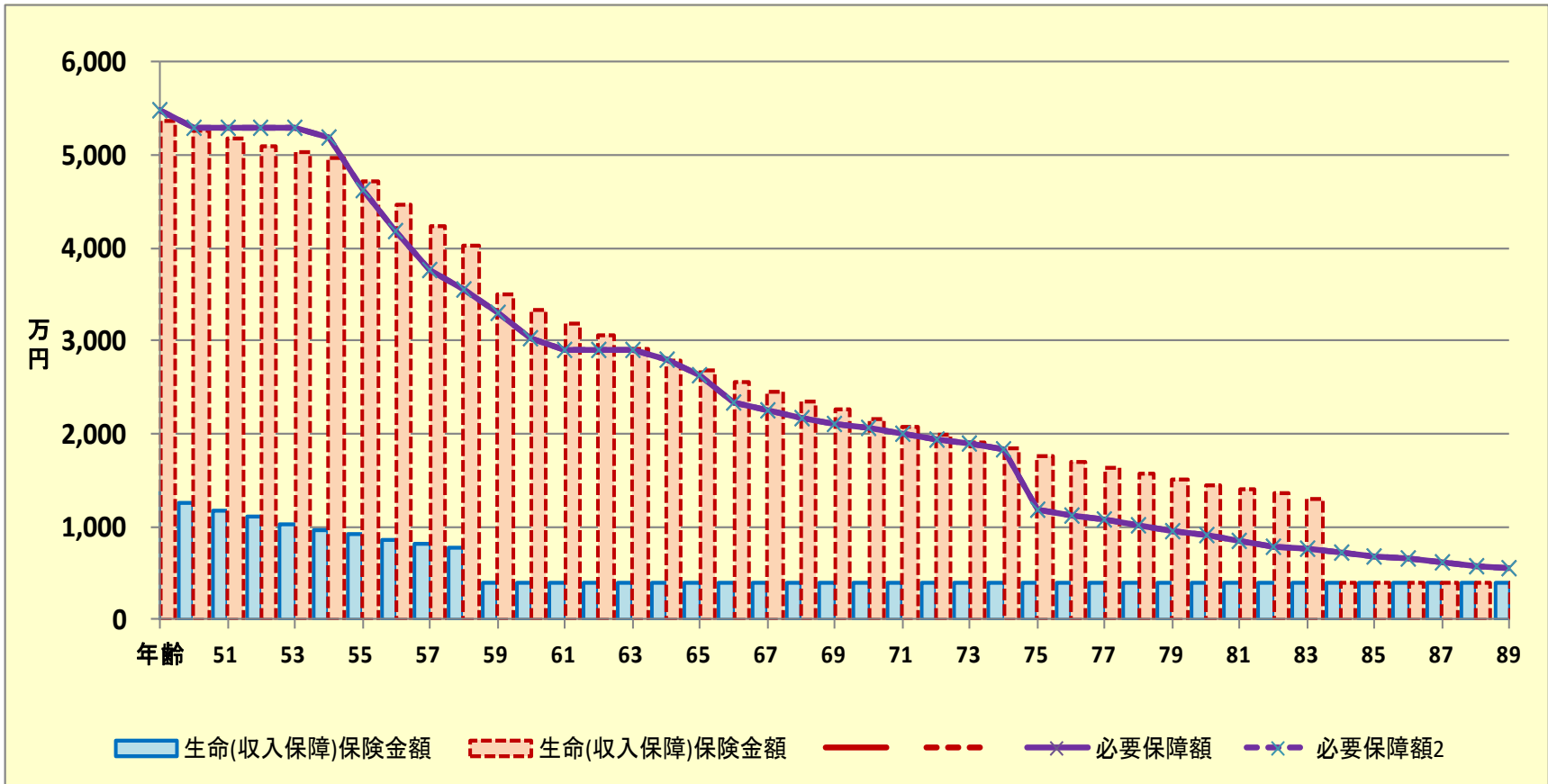
必要保障額概算

必要保障額 (本人が今年死亡の場合) = [予備費 + 今後の遺族の支出合計(基本生活費等の支出累計)]
 の遺族の収入合計(遺族年金等を含む収入累計) - 死亡後の前年の金融資産残高

- 今後 作成者

様

記入日



折れ線の必要保障額にそった保険をコストを見ながら探す。
 その際に保険会社の保険選びのソフトは便利